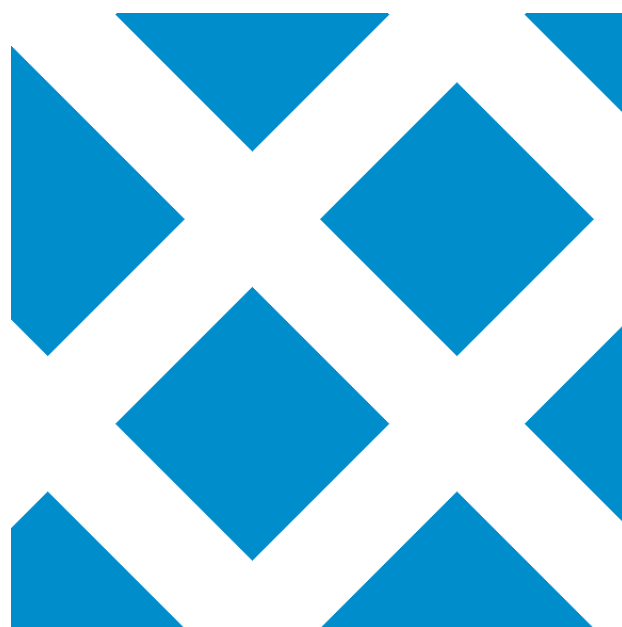


# 教育委員会事務の点検・評価報告書

(平成28年度対象)



平成29年9月

萩市教育委員会

## ■ 目 次

<b>1 教育委員会事務の点検・評価について</b>	・ ・ ・ ・ ・ 1
(1) 趣旨	
(2) 点検・評価の対象事業	
(3) 点検・評価の方法	
<b>2 教育委員会の活動について</b>	・ ・ ・ ・ ・ 2
(1) 教育委員会会議	
(2) その他の活動	
<b>3 点検・評価の結果</b>	
<事業点検・評価シート>	
No.1 ふるさと萩への誇りと志の育成	・ ・ ・ ・ ・ 3
No.2 学力の向上	・ ・ ・ ・ ・ 6
No.3 豊かな心の育成	・ ・ ・ ・ ・ 9
No.4 健やかな体の育成	・ ・ ・ ・ ・ 12
No.5 地域コミュニティの核としての学校づくり	・ ・ ・ ・ ・ 14
No.6 教育の専門家としての教師の育成	・ ・ ・ ・ ・ 16
No.7 特色ある学校づくりの推進	・ ・ ・ ・ ・ 18
No.8 教育環境の整備	・ ・ ・ ・ ・ 19

## 1 教育委員会事務の点検・評価について

### (1) 趣 旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、平成20年4月から施行されたことに伴い、教育委員会は、毎年、事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表しなければならないこととなりました。

萩市教育委員会では、法の趣旨に則り、「教育委員会事務の点検・評価」を次のとおり実施し、報告書にまとめました。

### (2) 点検・評価の対象事業

点検・評価に当っては、萩市学校教育振興基本計画（平成27年度～平成31年度）の第3章の重点取組事項として掲げる次の8項目を対象としました。

この報告書における点検・評価の対象とした重点取組事項

- ・ふるさと萩への誇りと志の育成
- ・学力の向上
- ・豊かな心の育成
- ・健やかな体の育成
- ・地域コミュニティの核としての学校づくり
- ・教育の専門家としての教師の育成
- ・特色ある学校づくりの推進
- ・教育環境の整備

### (3) 点検・評価の方法

- ・重点取組の項目ごとに点検・評価シートを作成しました。
- ・点検・評価シートにおいて、重点取組の目的を明らかにするとともに、目標を掲げました。

また、実施状況に係る成果を検証し、今後の取組について検討しました。

- ・点検・評価の結果について客観性を確保するため、学識経験者で構成する萩市教育委員会事務の点検・評価委員会を開催し、意見をいただきました。

## 2 教育委員会の活動について

### (1) 教育委員会会議

平成28年度においては、教育委員会会議を13回開催し、28件の議案を審議、可決しました。内容は、次のとおりです。

① 教育行政の基本方針に関する事項	3件
② 学校運営に関する事項	1件
③ 教育委員会規則等の制定又は改廃に関する事項	9件
④ 教科用図書採択等に関する事項	1件
⑤ 人事に関する事項	3件
⑥ 各審議会等委員の任命に関する事項	8件
⑦ 文化財の指定等に関する事項	3件

### (2) その他の活動

#### ① 学校訪問 小学校20校 中学校15校

全小学校及び中学校を訪問し、各学校の教育活動やコミュニティ・スクールの取組等について説明を受け、授業参観での感想や意見を述べ、学校施設の現況についても説明を受けました。

#### ② 教育委員研修

- ・市町村教育委員会研究協議会（西日本ブロック）への参加

高知県で開催されました文部科学省主催の研究協議会に参加し、研修を受けました。

- ・山口県市町教育委員研修会への参加

山口県主催の研修会に参加し、研修を受けました。

### 3 点検及び評価の結果

平成28年度 点検・評価シート

NO. 1

重点取組事項	ふるさと萩への誇りと志の育成	担当課	学校教育課
目的	学校と家庭、地域、産業界等が連携した志教育を推進し、主体的に自らの未来を切り拓くとともに、郷土に誇りと愛着をもち、地域に貢献する子どもを育成する。		
目標	<p>①萩・農下村塾事業・・・農業体験、職業講話実施率 100%</p> <p>②13歳 志プロジェクト事業・・・1/2成人式、立志式の実施率 100%</p> <p style="padding-left: 40px;">キャリア教育資料の活用率 100%</p> <p style="padding-left: 40px;">将来の夢や目標をもっている児童・生徒割合の向上</p> <p>③松陰教学推進事業・・・副読本活用率 100%</p> <p>④萩・お宝活用プロジェクト事業・・・各プロジェクトの実施率 90%</p> <p>⑤長州ファイブジュニア派遣事業・・・派遣生徒及び保護者の満足度 100%</p>		
実施状況	<p>①萩・農下村塾事業</p> <p style="padding-left: 20px;">地域等と連携して田植えや稲刈りの体験を行うなど、全ての小中学校において、地域の特色を生かした農業体験、職業講話を実施した。子どもたちは、お礼状を書くことを通して、感謝の思いを言葉にすることができた。</p> <p>②13歳 志プロジェクト事業</p> <p style="padding-left: 20px;">各校において、志シートを活用した1/2成人式及び立志式を実施し、児童生徒の夢やあこがれを志まで高めようとするキャリア教育を推進した。</p> <p style="padding-left: 20px;">児童生徒は、地域や保護者の前で堂々と大きい声で発表し、成長した姿を多くの人に見てもらうことができた。</p> <p style="padding-left: 20px;">また、職場見学や職場体験を実施し、自分の将来のなりたい職業について、さまざまな観点から考えることができた。</p> <p style="padding-left: 20px;">萩市キャリア教育推進資料「HAGI『志』サポート」を全ての中学校において活用し、キャリア教育の充実を図った。</p> <p>③松陰教学推進事業</p> <p style="padding-left: 20px;">小学3年生では「わたしたちのふるさと萩」、小学4年生では「松陰読本」、中学1年生では「郷土 萩」の副読本を配付し、各教科の学習を進める上で、萩の豊かな自然、価値ある歴史、伝統的な文化や産業を学ぶための資料として活用した。2年ごとに改訂し、世界遺産や明倫学舎など最新の情報を入れており、活用しやすいものとなっている。</p> <p>④萩・お宝活用プロジェクト事業</p> <p style="padding-left: 20px;">○プロジェクトⅡ</p> <p style="padding-left: 40px;">萩博物館、萩美術館・浦上記念館、大河ドラマ館、萩・世界遺産ビジターセンター学び舎、明倫学舎等での観覧体験学習を実施した。</p> <p>⑤長州ファイブジュニア派遣事業</p>		

	<p>英国のロンドン大学サマースクールへ語学研修として、中学生5名を約2週間派遣した。中学生は志を高く掲げ、語学研修だけでなく、長州ファイブゆかりの地訪問や、様々な国の青少年と交流するなど多くのことを学んで帰国した。</p>
<p>成 果</p>	<p>①萩・農下村塾事業</p> <p>○農業体験、職業講話実施率 100%</p> <p>地域の農事組合法人等と連携した取組を進めることで、専門的な知識や技術を得るだけでなく、地域に誇りと愛着をもって働く人々と接することで、萩を誇りに思う児童生徒の心情を育んだ。農業体験の後、お礼状を書かせている。感謝の思いを文字にすることは、子どもたちの内面の成長に結びついている。</p> <p>②13歳 志プロジェクト事業</p> <p>○小学校における1/2成人式の実施率 100%</p> <p>中学校における立志式の実施率 100%</p> <p>○小学校における職場見学の実施率 95%</p> <p>職場体験の実施率 40%</p> <p>中学校における職場体験の実施率 100%</p> <p>○中学校における「HAGI『志』サポート」の活用率 100%</p> <p>○「将来の夢や目標をもっている」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査より）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校90.6%（前年度88.4%）（H28 全国85.3%）</li> <li>・中学校80.0%（前年度79.6%）（H28 全国71.1%）</li> </ul> <p>③松陰教学推進事業</p> <p>○副読本活用率 100%</p> <p>児童生徒が萩の自然、歴史、文化、産業などについて学習する際、萩をより深く知る身近な資料として有効に活用された。また、授業中、疑問や課題を自分の力で解決するとき役に立てられた。</p> <p>④萩・お宝活用プロジェクト事業</p> <p>○プロジェクト</p> <p>プロジェクトⅡの実施率 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・萩博物館25校 ・萩美術館浦上記念館14校 ・大照院5校</li> <li>・世界遺産関連地7校 ・ジオサイト3校</li> <li>・萩・世界遺産ビジターセンター学び舎41校 ・萩・明倫学舎16校</li> </ul> <p>プロジェクトⅡでは、萩のお宝を活用してふるさとのよさを学習することができた。現地を訪問することで、より一層遺産のもつ価値を肌で感じ取ることができた。事後の感想からは、萩を誇りに感じている児童・生徒を多数見取ることができた。</p> <p>⑤長州ファイブジュニア派遣事業</p> <p>○派遣生徒、保護者の満足度 100%</p> <p>長州ファイブゆかりの地訪問により、明治維新胎動の地としての萩を再発見するとともに、郷土を愛し、郷土に貢献する機運を高めることにつながった。</p>

	派遣した生徒及び保護者の満足度は非常に高い。
今後の取組	<p>①萩・農下村塾事業 農業体験としては、田植えや稲刈りだけではあるが、少しずつ途中の管理がいかに大切であるかが子どもたちに浸透してきている。 各地域の特産品にも着目し、生産に携わる人々の願いや特産品を守り育てる苦労などに触れる活動を充実させることで、地域とのつながりを一層深めていくとともに、萩市の第一次産業の特長を実感できるような体験活動の充実を図る。</p> <p>②13歳 志プロジェクト事業 9年間の子どもたちの育ちを地域とのつながりの中で支えられるよう、1/2成人式や立志式を保護者や地域と共に行う仕組みづくりに一層取り組む。人は誰も人とのかかわりの中で生きている。その志がいかに人のために役に立つかという視点を大切に指導していく。</p> <p>③松陰教学推進事業 あらゆる学習の場面で、副読本を活用することにより、ふるさと萩のすばらしさを知るとともに、萩を愛し、誇りに思い、大切にしていこうとする気持ちを一層育成する。本物にふれる体験を大切にしていく。</p> <p>④萩・お宝活用プロジェクト事業 世界遺産を始め、萩の自然・歴史・文化遺産、また明倫学舎について、事前学習をしっかりとし、多くの現地を訪問し、学習を一層深めていく。 また、日本ジオパークの認定を目指す萩ジオパークと学校教育の連携を図る。特に、理科・社会・総合的な学習の時間において、関連する単元においては、ジオの視点からの学習を仕組み、それが小中でつながるようにしていく。</p> <p>⑤長州ファイブジュニア派遣事業 今後も継続して実施し、ふるさと萩に誇りと愛着をもち、豊かな国際感覚をもちグローバルな視点で行動できる人材を育成する。</p>
学識経験者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・萩・農下村塾事業は、イベント化している感を受けるが、草取りや防虫害防除も大切な作業である。</li> <li>・コミュニティ・スクールや地域一体型と絡めての事業は、継続して行っていただきたい。</li> <li>・立志式などは、やらされ感がある。1/2成人式や立志式に保護者や地域の方々が参加し、子ども達の思いを共有し、サポートする必要がある、志を発表することが、実際の学校生活に結びつけていくようにしていただきたい。</li> <li>・萩・お宝活用プロジェクト事業での本物に触れることは、続けていただきたい。</li> <li>・長州ファイブジュニア派遣事業の成果は、他の生徒へ伝えていただきたい。</li> </ul>

重点取組事項	学力の向上	担当課	学校教育課
目的	各小・中学校における学力向上の取組の工夫改善や充実を図るとともに、小中連携・小小連携・中中連携や保護者・地域との協働により、児童生徒に「確かな学力」をつけさせる。		
目標	<p>①確かな学力育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間の授業評価実施率(中学校) 100%</li> <li>・学校運営協議会委員参加の授業改善への取組率 80%</li> <li>・PDCAサイクルに基づく授業改善への取組率 100%</li> <li>・すべての教員年間2回以上の授業公開の実施率 100%</li> <li>・全国学力・学習状況調査における各校の各教科平均正答率全国平均より3%以上のアップ到達校の割合80%以上</li> </ul> <p>②学校支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・萩市教育研究大会における参加者の満足度80%以上</li> <li>・チェックリストによる授業改善の実施率 100%</li> </ul>		
実施状況	<p>①確かな学力育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校における毎時間の授業評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に対する生徒の意見を聞き、それを生かして授業改善に取り組んだ。</li> <li>・評価の観点や実施方法は、各校で工夫して行った。</li> </ul> </li> <li>○参観日、ユニット型研修、校内授業研究会を活用し学校運営協議会委員の授業参観を実施した。</li> <li>○リーフレット「萩市の学力向上をめざして」に掲げる4項目の重点取組事項である「学校の力を伸ばす組織づくり」、「わかる・できる・楽しい授業づくり」、「家庭と連携した学習習慣づくり」、「落ち着いて学習に取り組める環境づくり」の推進と、チェックリストを用いた研修を実施した。</li> <li>○年2回のPDCAサイクルにもとづく授業改善の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学力調査による児童生徒の学力の把握、課題の洗い出し、課題解決に向けた具体的方策を実施した。</li> <li>・基礎的・基本的な学習内容の定着に向け、「やまぐちっ子学習プリント」を活用した。</li> </ul> </li> <li>○校内研究授業、互見授業、学力向上推進リーダー等の訪問日などを積極的に活用し、すべての教員が年間2回以上は授業公開を実施した。</li> <li>○同じ中学校区同士の集合学習の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・旭地域：明木小学校、佐々並小学校</li> <li>・須佐地域：育英小学校、弥富小学校</li> <li>・田万川地域：多磨小学校、小川小学校</li> </ul> </li> <li>○小規模校と中・大規模校の交流学习の実施</li> </ul>		



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相島小学校→椿東小学校、相島中学校→萩東中学校、見島小学校→椿西小学校、見島中学校→萩西中学校、木間小学校→白水小学校</li> </ul> <p>②学校支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○萩市学校教育研究発表大会では、今日の教育課題に応える平素の教育実践の成果を発表し合い、学校教育の充実と開かれた学校づくりの推進を図った。</li> <li>○ALTの派遣による外国語活動・英語科教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>語学指導を行う外国青年6名を、中学校英語教育ならびに小学校外国語活動の改善・充実を図るために派遣した。</li> <li>・中学校における外国語授業や小学校における外国語活動の補助</li> <li>・外国語教材作成の補助及びスピーチコンテスト等への協力</li> <li>・教員に対する外国語研修への補助など</li> </ul> </li> <li>○指導主事が担当制により、年間延べ1000回以上学校を訪問し、授業へのアドバイス、校内研修等における指導助言を行った。</li> <li>○へき地・複式教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省のICT実証研究事業を活用し、佐々並小学校と明木小学校でテレビ会議システムによる遠隔合同授業に取り組んだ。</li> <li>・萩地区へき地・複式教育研究大会を佐々並小学校で実施し、複式授業の授業展開についての研修を深めた。</li> </ul> </li> </ul>
成 果	<p>①確かな学力育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毎時間の授業評価実施率(中学校) 67%</li> <li>○学校運営協議会委員参加の授業改善への取組率 40%</li> <li>○PDCAサイクルに基づく授業改善への取組率 100%</li> <li>○すべての教員年間2回以上の授業公開の実施率 100%</li> <li>○全国学力・学習状況調査における各教科の平均正答率全国平均より3%以上のアップ到達校の割合・・・小学校42%、中学校61%</li> <li>・小学校：国語のA・Bで全国平均を上回り、算数Bは全国平均とほぼ同じ、算数Aはやや下回っている。</li> <li>・中学校：国語のA・B、数学のAは全国平均を上回り、数学Bは全国平均をやや上回った。</li> </ul> <p>②学校支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○萩市学校教育研究発表大会における参加者の満足度84.7% <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京学芸大学教職大学院永田教授の講演により、求められる道德教育や今後の動向について理解することができ、平成30年度、31年度からの道德の教科化に向けて実り多い研修となった。</li> </ul> </li> <li>○チェックリストによる授業改善の実施率 100% <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校の校内研修等に指導主事が参加し、チェックリストに基づいた指導助言を行った。</li> <li>・学力向上推進リーダー・推進教員による授業実践や授業改善への指導・助言をチェックリストに基づいて行った。</li> </ul> </li> </ul>

<p>今後の取組</p>	<p>①確かな学力育成事業</p> <p>全国学力・学習状況調査等の結果において、継続して課題が見られる単元がある。各学校において誤答分析をしっかりと行うことで児童生徒の課題を把握し、それを授業改善に生かす。特に、算数Aなどにおいて定着に課題が見られるので、定着を図る時間を確保した授業づくりについて取り組む。</p> <p>また、互見授業の推進やミニ研修のもち方の工夫により、教員一人一人の授業力向上を図りたい。</p> <p>②学校支援事業</p> <p>萩市学校教育研究発表大会の内容の充実を図るとともに、多くの保護者、学校運営協議会委員、地域住民等の参加に努める。</p> <p>佐々並小学校と明木小学校でのテレビ会議システムによる遠隔合同授業の実証研究の成果を踏まえ、今後他の中山間地や離島の小規模校への拡充を検討する。</p> <p>また、複式授業研修センターを立ち上げ、複式指導を必要とする学校への訪問指導や萩市複式指導マニュアルの作成等を行い、複式授業の充実を図りたい。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童クラブの学習支援について、子育て支援課、文化・生涯学習課と学校教育課の3課が協力して実施されているが、そのねらいを明確にし、学校とも連携していただきたい。</li> <li>・ICTによる授業への活用など、引き続き取り組んでいただきたい。</li> <li>・算数Aの定着のため、そろばんの活用を図れば、暗算や計算には有効になるので取り入れていただきたい。</li> </ul>

重点取組 事項	豊かな心の育成	担当課	学校教育課
目的	自他の良さを認め合い、他人を思いやる優しい心をもった子どもを育成する。 また、いじめや不登校等の生徒指導上の諸課題の未然防止を図るとともに、問題を抱えた児童生徒及び保護者に対して、共に悩み、寄り添う伴走型支援を行う。		
目標	①生きる力をもった子ども育成事業 ・チャレンジ目標の設定及び学校評価への位置づけ 100% ・週1回以上アンケートの実施率 100% ②スクールガードリーダー設置事業 ・年間登下校時における無事故の学校の割合 80% ③子ども相談・支援室事業 ・「子ども相談・支援室が役に立った」という学校の割合 90% ・いじめ、不登校、暴力行為の認知率、出現率、発生率の減少 ④子育て科創設事業 ・「子育て科」の実施率 100%		
実施状況	①生きる力をもった子ども育成事業 地域教育ネットの中学校区の小・中学校または幼稚園・保育園等を巻き込んで、15年間を見通して、生活規律・学習規律の重点取組項目ーチャレンジ目標（「明るいあいさつや正しい姿勢・鉛筆の握り方や発表の仕方」）を決めて、全ての教職員が一貫して指導を行い、児童生徒の「生きる力」を醸成した。特に各学校はその目標の達成のために、学校評価にも位置づけ、具体的な数値目標を掲げ実践し、PDCAサイクルで検証した。 また、週1回以上の生活アンケートを各学校が実施し、子どもたちの困り感の早期発見に努めた。また、その結果を市教委に報告し、情報の共有を図った。 ②スクールガードリーダー設置事業 3名のスクールガードリーダーを設置し、全ての小中学校へ1校あたり平均約4回派遣した。スクールガードリーダーは管理職や教職員への学校生活の安全管理における指導助言、学校内外のパトロール、防犯や災害避難訓練の講師、通学路の安全点検などを行い、事件・事故の未然防止に努めた。 ③子ども相談・支援室設置事業 小中学校の生徒指導上の諸課題の解決、いじめ、不登校、児童虐待等の困難な事案に対して、専門的かつ継続的に対応するため「子ども相談・支援室」（萩市教育委員会内）が中心となり、子どもに関わる相談や支援の充実に努めた。 いじめに関しては早い段階からスクールカウンセラーを派遣し、ケース会議を開いて、被害生徒や加害生徒のケアを行い、重大事案に発展する前にその解消することができた。		

	<p>不登校に関しては教育支援センター「萩輝きスクール」を運営し、教室復帰を目指す児童生徒を経験豊富な6名の支援員が児童生徒の心のエネルギーの充填に尽力した。また、保健師や児童相談所の心理士や医療とも連携して、不登校の子どもに家族に寄り添い、支援した。</p> <p>④子育て科創設事業</p> <p>小中学校9年間で約100時間の授業を「子育て科」として実施し、「学ぼう自分の育ち、感じよう家族の愛情、伝えよう命の尊さ」をキャッチフレーズとして、系統立てて学習した。また保健師と連携し「乳幼児ふれあい体験」などを行った。</p>															
成 果	<p>①生きる力をもった子ども育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○チャレンジ目標を設定し、学校評価の中に位置づけ100%</li> <li>○週1回以上のアンケートの実施率100%</li> </ul> <p>②スクールガードリーダー設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年間登下校時における無事故の学校の割合 83%</li> </ul> <p>③子ども相談・支援室設置事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめ・不登校・暴力行為の認知率・出現率・発生率</li> <li>※数値は児童生徒100人当たりの認知率・出現率・発生率</li> <li>( )内は平成27年度との比較</li> </ul> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>・いじめ</td> <td>小学校</td> <td>1.74(-0.44)</td> <td>中学校</td> <td>4.31(-0.55)</td> </tr> <tr> <td>・不登校</td> <td>小学校</td> <td>0.05(±0)</td> <td>中学校</td> <td>1.38(-0.87)</td> </tr> <tr> <td>・暴力行為</td> <td>小学校</td> <td>0.45(+0.05)</td> <td>中学校</td> <td>0.64(+0.28)</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめについては、小学校で35件、中学校で47件認知されたが、その解決のために全職員が組織的に対応し、ほぼ解消している。</li> <li>・不登校（年間30日以上欠席）の児童生徒数は、小学校で1人、中学校で15人。発生率は小学校が27年度0.05%から変わらず0.05%、中学校においても27年度2.25%から1.38%と減少した。これは、病気や家庭環境など複合的な理由で教室に入れない児童生徒が増加したためである。また、全ての事案に子ども相談・支援室が参加するケース会議を開催し、関係機関と連携を取りながら継続的な支援を行っている。</li> <li>・暴力行為は小学校で9件。中学校で7件発生した。27年度は、小学校は8件、中学校が4件。件数が減少しない背景は、SNS等バーチャルな対人関係に慣れていて実際のコミュニケーション能力が低下していることが考えられる。</li> <li>・事案によってかかわりの度合いは異なるが、各校と子ども相談・支援室は密接につながっており、一体となって各課題に対応している。</li> </ul> <p>④子育て科創設事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「子育て科」の実施率 100%</li> </ul>	・いじめ	小学校	1.74(-0.44)	中学校	4.31(-0.55)	・不登校	小学校	0.05(±0)	中学校	1.38(-0.87)	・暴力行為	小学校	0.45(+0.05)	中学校	0.64(+0.28)
・いじめ	小学校	1.74(-0.44)	中学校	4.31(-0.55)												
・不登校	小学校	0.05(±0)	中学校	1.38(-0.87)												
・暴力行為	小学校	0.45(+0.05)	中学校	0.64(+0.28)												
今後の取組	<p>①生きる力をもった子ども育成事業</p> <p>貧困やひとり親家庭の増加で、幼少時の家庭環境において思うような愛情が得られない愛着障害を抱える児童生徒が増え続けている。そのため常に他人の愛情を試したり、気を引こうとするトラブルが減少しない。そういった児童生徒の「育</p>															

	<p>てなおし」に保護者、学校、関係機関や地域が協力して、なるべく早いうちから、支援に入り、児童生徒が社会的に自立できるまでの息の長いサポートを行っていく。</p> <p>②スクールガードリーダー設置事業</p> <p>「自分の身は自分で守る」をモットーに避難訓練や危険予知トレーニング学習などをスクールガードリーダーと学校が協力して行い、交通事故をはじめとした様々な危機、災害、トラブルから自他の命を守る自助・共助の意識と技術を習得することを目標として取り組みを深める。</p> <p>③子ども相談・支援室設置事業</p> <p>コミュニケーション能力の低下から集団にうまく適応できない児童生徒が増えてきていることから、その子どもや保護者の困り感に寄り添い、支援していく。</p> <p>いじめに関しては、各学校のいじめ対策会議に今後も、子ども相談・支援室が積極的に参加するとともに、「萩市いじめ問題対策連絡協議会」を有効に活用し、関係機関と連携を図りいじめの未然防止に全力をあげて取り組む。</p> <p>不登校に関しては、教育支援センター「萩輝きスクール」に繋ぐため、休み始めの早い時期から学校、保護者、関係機関とケース会議を行い、連携し支援する。</p> <p>また、完全な引きこもりを作らないため、定期的な家庭訪問やアウトリーチ活動に今後も引き続き関係機関と連携して取り組む。</p> <p>④子育て科創設事業</p> <p>命の大切さや、家族のありがたみ、子育ての大切さや楽しさを学校・家庭・地域が9年間かけて子どもに教え導くことで、地域教育力日本一の町・萩を目指す。昨年度、本事業は始まったばかりであるので、これからも継続して取り組む。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭で何でも話し合える環境づくりが必要である。</li> <li>・不登校の解消に向けては、家庭と連携を図っていく必要がある。そのために就学前の子どもから小学校、中学校と支援をつなげていただきたい。</li> <li>・保護者、学校と地域での情報共有を行い、いじめへの対処をお願いしたい。</li> </ul>

重点取組事項	健やかな体の育成	担当課	学校教育課
目的	学校、家庭、地域が連携し子どもの発育段階に応じた基礎体力の向上、望ましい生活習慣の形成を図り、健やかな体づくりを推進する。		
目標	<p>①一校一取組推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じて、毎週決まった曜日・時間に運動を実施する学校の割合 100%</li> </ul> <p>②保健推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の95%以上が朝食を食べる学校の割合 100%</li> <li>・生活習慣のチェック、改善を保護者とともに実施する学校の割合 100%</li> </ul> <p>③食育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任と栄養教諭・栄養士、養護教諭とのチーム・ティーチングによる食育指導を実施する学校の割合 100%</li> </ul>		
実施状況	<p>①一校一取組推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての小中学校において、運動の時間を設けて取り組んだ。(早朝ランニングや業間体育など)</li> </ul> <p>②保健推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食を食べるという習慣を身につけさせるため全ての小中学校で保護者と連携して、生活習慣のチェックを実施した。</li> </ul> <p>③食育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任と栄養教諭・栄養士、養護教諭とのチーム・ティーチングによる食育指導を実施し、バランスよく食べることの重要性を指導した。</li> <li>・地域の特色を生かした献立を使った食に関する指導を実施した。</li> </ul>		
成果	<p>①一校一取組事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年間を通して、毎週決まった曜日・時間に運動を実施する学校の割合 100%</li> </ul> <p>②保健推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「朝食を毎日食べている」と答えた児童生徒の割合 78%</li> <li>○生活習慣のチェック、改善を保護者とともに実施する学校の割合 100%</li> </ul> <p>③食育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○担任と栄養教諭・栄養士、養護教諭とのチーム・ティーチングによる食育指導を実施する学校の割合 100%</li> <li>○地域の特色を生かした献立「萩まるごと食べちゃろうデー」を年9回実施。</li> </ul>		
今後の取組	<p>①今後も継続することで、適切な運動量の確保による基礎体力向上を目指す。</p> <p>②生活チェックを継続して行うことで、望ましい生活習慣づくりを行うとともに、体力や運動習慣に関する情報の発信をし、家庭や地域とともに健康な体づくりの意識を高めていく。</p>		

	<p>③引き続き、チーム・ティーチングによる食育指導を実施し食事の大切さや楽しさを理解させる。朝食をバランスよくとることの大切さも指導し自ら食生活を管理する能力を身につけさせる。</p> <p>また、地域の特色を生かした献立を使った食に関する指導をさらに充実させ、地域の食文化について理解を深める。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生、高校生に進むほどに朝ごはんの必要性が増してくるため、幼少期の生活習慣、食育が重要であり、現在の取り組みは、活動の成果が上がっているので、引き続き、現行の取り組みを行っていただきたい。</li> </ul>

重点取組 事項	地域コミュニティの核としての学校づくり	担当課	学校教育課
目的	コミュニティ・スクールを核として、地域や保護者が連携・協働し、地域ぐるみで子どもの学びや育ちを支える取組を推進するとともに、地域に開かれ、地域に貢献する学校づくりを目指す。		
目標	①コミュニティ・スクール推進事業 ・学校運営協議会設置率 100% ②開かれた学校づくり事業 ・ホームページを運営する学校の割合 100% ・学校評価を公表する学校の割合 100%		
実施状況	①コミュニティ・スクール推進事業 地域住民との連携・協働、児童生徒の地域ボランティアへの参加を積極的に実施した。 ・地域住民の来校者数（のべ人数） 約40,000人 ・授業に活用した地域人材の人数（のべ人数） 約3,000人 ・部活動に活用した地域人材の人数（のべ人数） 約1,500人 ・地域住民の見守り活動への参加者数（のべ人数） 約28,000人 ・児童生徒の地域ボランティア参加回数（1人あたり） 約4.2回/人 ②開かれた学校づくり事業 ・全小中学校がホームページを開設しており、学校行事の様子やコミュニティ・スクールの取組、小中一貫教育の取組など幅広く情報発信した。 ・全ての小中学校でホームページや学校だより等に掲載、PTA総会（懇談会）や学校運営協議会等での説明などの方法で、学校評価を公表した。		
成果	①コミュニティ・スクール推進事業 ○学校運営協議会の設置率 100% 統廃合により福栄小・中学校、併設により明木小・旭中学校が学校運営協議会を設置し、市内全ての学校に学校運営協議会が設置となった。多くの学校では、学校課題を共通理解する「熟議」が行われ、「地域協育ネット」と連携した取組へと発展させている。こうした「地域協育ネット」とのつながりは、学校へ来校する地域住民の人数や児童生徒のボランティア活動への参加回数の増加に影響しており、学校が地域と一体となった取組が一層進められている。 ②開かれた学校づくり事業 ○ホームページを運営する学校 100% 児童生徒の普段の様子が写真付きで分かりやすく公開されており、保護者や地域住民にも好評である。 また、ホームページでコミュニティ・スクールの情報を積極的に公開してい		



	<p>る学校では、WEB上の情報を手がかりに他県からの視察申込が多く寄せられており、本市の先進的な取組が評価されている。さらに、本年度からは、小中一貫教育校も積極的な情報発信に努めており、萩市が推進する小中一貫教育を広く周知している。</p> <p>○学校評価を公表する学校の割合 100%</p> <p>学校評価の公表が進んでおり、学校関係者の間に評価項目が浸透しつつある。さらに、評価項目の中に学校運営協議会で協議された、求める児童生徒像の具体的な姿を加えることで、学校運営協議会と連携したPDCAサイクルが定着しつつある。</p>
<p>今後の取組</p>	<p>①コミュニティ・スクール推進事業</p> <p>教職員を対象としたアンケート調査では、「地域の方に子どもの顔を覚えてもらい、防犯上、防災上でよかった。」「児童生徒が落ち着き、保健室への来室状況が改善した。」という意見がある。コミュニティ・スクールの推進から生じる多忙感はあるが、それ以上の効果を実感している学校も多い。今後は、業務改善の視点を取り入れた取組を広めていく。</p> <p>②開かれた学校づくり事業</p> <p>ホームページを運営する学校が100%となった。今後は、その充実のための運営・作成に係る情報提供に努める。また、学校評価については、学校関係者評価が評価者にとって分かりやすいものとなるよう、評価項目の具体化を図ったり、日常的な学校参観の機会を多くとったりするよう働きかけていく。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方が児童生徒へのために良く協力されていることが良く分かった。</li> <li>・先生と地域住民の関わりを深めるため、児童・生徒の成長を中心にすえて、何ができるかを考え、より一層結びつくような活動を行っていただきたい。</li> <li>・地域に届ける教育、地域から学ぶ教育の推進を強化していただきたい。</li> </ul>

重点取組 事項	教育の専門家としての教師の育成	担当課	学校教育課
目的	初任者、2年次～4年次、ミドルリーダー等、教員それぞれのキャリアステージに応じて、基礎的・基本的な研修から専門的な研修まで実施することで、個々の教員の資質を向上するとともに、各学校におけるOJTの促進につなぐ。		
目標	①教育の専門家としての教師の育成 ・1000日プランの作成・実施 100% (1000日プラン対象者の在籍校)		
実施状況	<p>①キャリアステージに応じた教職員研修事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○はぎ人材育成1000日プランの実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての対象教員（初任者～4年次50名）が1000日プランを作成した。プランやその実施状況を人材育成会議で共有し、全校体制で人材育成を推進した。</li> <li>・1000日プラン担当者会議を開催し、各学校の人材育成の中核となる教員で対象教員の成長や課題の共有、指導方針についての協議を行った。</li> <li>・1000日プラン実践研修会を延べ4回実施（一斉研修会、地区別研修会3回）指導案づくり、公開授業及び授業検討会を行い、学習指導を中心に教員としての基礎・基本的な資質の向上を図った。</li> </ul> </li> <li>○ミドルリーダー研修会の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中堅教員（17名）に対して、学校経営に係る様々な角度からの専門的な研修を計5回実施した。（危機管理、法令研修、特別支援など）</li> </ul> </li> <li>○萩塾の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導、生徒指導、特別支援教育、道徳教育、英語教育、学級づくり、ふるさと学習（ジオパーク関係）等の内容で、各分野のスペシャリストによる実践事例発表、ワークショップ型研修など実効性のある研修を計7回実施した。</li> </ul> </li> </ul>		
成果	<p>①キャリアステージに応じた教職員研修事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1000日プランを実施する学校の割合 100% <ul style="list-style-type: none"> <li>・1000日プランの仕組みをシンプルに示すとともに、地域別研修会の実施を推進したことで、学校の垣根を越えた教員の繋がりが生まれ、各学校の取組が活性化した。</li> </ul> </li> <li>○ミドルリーダー研修会の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加した中堅教員は、自分の担当する校務分掌や授業といった視点からだけでなく、学力向上、人材育成、地域貢献等、多角的な視点から研修を深めた。</li> </ul> </li> <li>○萩塾の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手教員だけでなく、様々な年齢層の教職員が多数参加しており、学習指導、特別支援教育や英語教育といった様々な視点から授業づくりや学級づくりについて研修を深めた。</li> </ul> </li> </ul>		
今後の取組	<p>①キャリアステージに応じた教職員研修事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、萩市内に多くの新規採用教員が着任することから、市内すべての学校がはぎ人材育成1000日プランや各学校の校内研修の計画を共有し、教職員研修の活性化を図る。</li> <li>・萩塾、ミドルリーダー研修会の講師として市内の中堅教員を積極的に起用し、各学校の中核となる教職員のさらなる資質向上を図る。</li> </ul>		

学識経験者の意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・教師は、良く勉強されており、自分の技量を充分地域で発揮していただきたい。</li><li>・新採教職員（中堅職員も含む。）の精神面・身体面について、組織的にきめ細やくサポートしていただきたい。</li></ul>
----------	---

重点取組 事項	特色ある学校づくりの推進	担当課	学校教育課																								
目 的	地域や学校の特色を鮮明にした教育の実現に向けて、特色ある教育活動推進拠点校（コアスクール）を設定し、創意と活力に満ちた学校づくりを推進する。																										
目 標	①特色ある教育活動拠点校構想事業 ・拠点校の設置率 100%																										
実 施 状 況	<p>①特色ある教育活動拠点校構想事業</p> <p>コアスクールの取組は以下のとおりである。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>・松陰教学：</td> <td style="text-align: center;">2校</td> <td>・コミュニティ・スクール：</td> <td style="text-align: center;">4校</td> </tr> <tr> <td>・ふるさと学習：</td> <td style="text-align: center;">12校</td> <td>・小中一貫教育：</td> <td style="text-align: center;">4校</td> </tr> <tr> <td>・保小中連携教育：</td> <td style="text-align: center;">2校</td> <td>・小中連携教育：</td> <td style="text-align: center;">6校</td> </tr> <tr> <td>・漁業学習：</td> <td style="text-align: center;">2校</td> <td>・小中一体教育：</td> <td style="text-align: center;">2校</td> </tr> <tr> <td>・キャリア教育：</td> <td style="text-align: center;">5校</td> <td>・地域との連携：</td> <td style="text-align: center;">12校</td> </tr> <tr> <td>・農業・林業体験学習：</td> <td style="text-align: center;">2校</td> <td>・伝統文化の継承・発信：</td> <td style="text-align: center;">3校</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">※重複学校有り</p>			・松陰教学：	2校	・コミュニティ・スクール：	4校	・ふるさと学習：	12校	・小中一貫教育：	4校	・保小中連携教育：	2校	・小中連携教育：	6校	・漁業学習：	2校	・小中一体教育：	2校	・キャリア教育：	5校	・地域との連携：	12校	・農業・林業体験学習：	2校	・伝統文化の継承・発信：	3校
・松陰教学：	2校	・コミュニティ・スクール：	4校																								
・ふるさと学習：	12校	・小中一貫教育：	4校																								
・保小中連携教育：	2校	・小中連携教育：	6校																								
・漁業学習：	2校	・小中一体教育：	2校																								
・キャリア教育：	5校	・地域との連携：	12校																								
・農業・林業体験学習：	2校	・伝統文化の継承・発信：	3校																								
成 果	<p>①特色ある教育活動拠点校構想事業</p> <p>○拠点校の設定率 100%</p> <p>○地域を学習の場として地域人材を活用した教育活動が展開され、地域の歴史や産業等を継承・発展させる心情を育てている。</p> <p>・明倫小学校、椿東小学校・・・松陰教学、松下村塾の志を取り入れた教育</p> <p>・大島小中学校・・・地域産業としての漁業体験を通じたキャリア教育</p> <p>・むつみ中学校・・・豊かな森林資源を活用した体験学習</p> <p>○学校規模や学校の立地条件を活用し、小中学校で一貫した教育活動が展開され、幼児・児童・生徒間のつながり、地域とのつながりが深まった。</p> <p>・大井小中学校、三見中学校、見島小中学校、福栄小中学校・・・小中一貫教育の推進</p> <p>・木間小中学校、相島小中学校・・・小中連携教育の推進</p> <p>・川上小中学校、越ヶ浜小中学校・・・保小中連携教育の推進</p>																										
今後の取組	①特色ある教育活動拠点校構想事業 <p>今後は、地域や学校の特徴を活かしたコミュニティ・スクールの取組をさらに推進するとともに、児童生徒の9年間の育ちを見通した小中連携カリキュラムや小中一貫カリキュラムの作成に取り組み、特色ある学校づくりを推進する。</p>																										
学識経験者の 意 見	<p>・各校がそれぞれ実態に応じて特色のある教育活動を実践していることがよく理解できた。</p> <p>・学校教育と社会教育の連携・融合を強化し、教育効果をあげていくために、派遣社会教育主事の配置が行っていただきたい。</p>																										

重点取組 事項	教育環境の整備	担当課	総務課
目的	計画的な学校施設等の整備や情報化の進展に対応した機器整備など安全で質の高い教育環境の整備、充実を図る。また、中学生が地元の高校へ進学しやすい環境を整え地元高校への進学率の向上を目指す。		
目標	①学校施設の耐震化率 100%。 ②学校の無線LAN整備率 100%。 ③学校給食の県産食材使用率 70%。 ④中学校卒業生の地元高校への進学率 80%。		
実施状況	①学校施設整備事業 ○改築・改修・解体事業 ・白水小学校…下水道接続工事 ・椿東小学校…テント倉庫改築工事 ・越ヶ浜小学校…学校給食共同調理場改修工事 ・大井小中学校…旧大井小学校及び旧大井中学校屋内運動場解体工事、外溝工事 ・大島小中学校…旧大島小学校屋内運動場解体工事 ・相島小中学校…屋上防水改修工事及び屋根塗装改修工事 ・見島小中学校…屋内運動場屋根防水改修工事 ・旭中学校…旧明木中学校校舎等解体工事 ・福栄小中学校…屋内運動場吊り天井改修工事、屋根塗装工事 ○遊具整備事業 ・遊具の新設 8校15基 ・遊具の移設 1校 1基 ・遊具の改修 10校17基 ②情報教育基盤整備事業 ○無線LAN整備 無線LANを7校で整備 ○タブレット型コンピューター整備 9校でタブレット型コンピューターへ更新 ③安心安全な学校給食提供事業 ○食育及び地産地消の推進を図るため萩産の食材を活用する「萩まるごと食べちゃろうデー」を毎月、「県産食材100%献立」を6回実施 ④地元の高校へ進学しやすい環境整備事業 ○地元の高校へ遠距離通学する高校生を対象に列車、バス定期代の一部を助成 ○市報により市内高校の特色等を情報発信 ○女子高校生を対象とした女子寮を整備		

成 果	<p>①学校施設整備事業</p> <p>○学校施設の耐震化は改築・改修等により、平成27年度に耐震化率100%を達成したが、屋内運動場のつり天井等の非構造部材の耐震化を計画的に実施した。また、老朽化した旧校舎、旧屋内運動場の解体、予防保全事業を実施し、施設の延命化を図った。</p> <p>○安全点検で不具合のあった遊具の修繕、</p> <p>②情報教育基盤整備事業</p> <p>○無線LAN整備率76.5%（前年度末48.6%）</p> <p>○タブレット型コンピューター整備率89.8%（前年度末51.4%）</p> <p>③安心安全な学校給食提供事業</p> <p>○県産食材使用率69.0%（前年度68.5%）</p> <p>④地元の高校へ進学しやすい環境整備事業</p> <p>○地元高校への進学率72%（前年度70%）</p>
今後の取組	<p>①学校施設整備事業</p> <p>○耐震化が完了した学校施設については、計画的に予防保全、改修等を実施し、安心・安全な教育環境の確保、施設の長寿命化を図る。</p> <p>○遊具については、平成26年度点検分にかかる新設、改修を平成28年度完了するとともに、今後、定期的に安全点検を実施し、必要に応じて撤去、新設、改修を行う。</p> <p>②情報教育基盤整備事業</p> <p>○無線LAN整備については、平成29年度を目途に整備率100%を目指す。</p> <p>○タブレット型コンピューター整備については、平成29年度を目途に整備率100%を目指す。</p> <p>③安心安全な学校給食提供事業</p> <p>○産地情報交換会を毎月行い、引き続き「萩まるごと食べちゃろうデー」等を実施するなど地元産食材の使用に努め、平成28年度の県産食材使用率70%を目指す。</p> <p>④地元の高校へ進学しやすい環境整備事業</p> <p>○引き続き通学費の支援を行うとともに、平成28年度に整備した離島や遠距離等通学困難な高校生を対象とした女子寮を運営するなど市内の高校へ進学しやすい環境整備を図る。</p> <p>また、中高連絡協議会を開催し、中学校、高校、教育委員会が連携を図り中学生が市内の高校へ進学したいと思う環境づくりを推進する。</p> <p>これらの取組により、平成30年3月中学校卒業生の地元高校への進学率80%を目指す。</p>
学識経験者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動場は、地区の行事でも使用するため、外トイレの設置が必要な学校もある。</li> <li>・将来の児童生徒数を勘案してOA機器類を学校間で融通しあい、有効利用していただきたい。</li> <li>・夏場（高温）における教育環境の改善を進めていただきたい。</li> </ul>

